



連載の解説版「もう一つの『発達の中の煌めき』」第六回は、こちらから見ることができます。

し、絵を描くことが好きで、毎日絵を描き続け、それを寮に来る人にプレゼントしたり、旅行の際には宿泊先の「おかみさん」へのお土産にと持っていきます。そのなかで、少しずつ少しずつ穏やかになっていったということでした。彼の話に職員さんから伺いながら、「生活の中に絵があること」の豊かさとおもしろさに惹かれていきました。

二次元可逆操作期とは

四歳の節である二次元可逆操作期とは、二種類の可逆操作をひとつにまとめあげる時期ととりあえずはおさえておきましょう。「片足をあげる―おろす」「前に進む―止まる」という二種類の可逆操作をまとめあげてケンケンをしたり、利き手にハサミ、もう片方の手に紙をもつて紙を丸く切るといふようなハサミの使い方ができるようになっていきます。みかんの皮を剥く際も、それまではみかんを持つ手に意識を向けられず、力が入りすぎてつぶしてしまっていたのが、つぶさないように握ろうとするようになっていきます。服を着ながらお話をするようにもなります。こうした「～シナガラ～スル」というまとめあげ方を、単なる動

作だけでなく、頭の中に目標やイメージをもつて、さらに気持ちをこめておこなっていきけるように、じっくりと応援したいものです。

友だちという存在も今まで以上に重要になります。「友だちがブランコにのりたがっている」ことに気づき、だから「ボクもブランコにずーっとのっついてい」と自分の思いを強め、「でも、友だちものりたと言っているし」と心が揺れます。そして、「ずーっとのっついていなくても、かわりばんこにしよう」と気持ちに折り合いをつけていきます。「～シナガラ～スル」が、「～ダケレドモ～スル」という、もう一步深いまとめあげ方になっていくのです。そうした行為の結果に対し「自制心を発揮した」と評することがありますが、「譲ってあげられた」「がまんができた」という結果だけを見て子どもをほめることになってしまつと、「おとなにほめられるためにがまんをする」という淋しい自制心になりかねません。「さあ、片づけましょう」という先生の声かけに対し、すんなりと片づけ始める姿が、本当に「もつと遊ばたいけれど、給食だし」となっているのか、そもそも「もつと遊びたい」にな

っていないからスムーズに切り替えていくように見えるのか、子どもたちの姿を深いところからとらえたいものです。

「問題行動」は発達要求のあらわれ

さて、この四歳の節を迎える頃になると、保育者を悩ます新たな「問題」が起きてきます。その一つが、友だちの遊びやつくったものをわざと壊しにいくなど「トラブルメーカーの○ちゃん」と言われるような事態が増えてくることでしよう。以前はみんなと一緒に遊んでいたのに「なぜ？」と戸惑います。あるいは、みんなと一緒にいることが嫌なのか、部屋を飛び出し、一人遊びになったり、職員室に入り浸ったりする子もいます。日本の保育制度のなかでは、三歳児すなわち「以上児」になると極端に保育士配置基準が厳しくなるといふ劣悪さも加わって、こうした子どもたちが示す一見「負」の変化に保育者も困惑を強めがちです。

それぞれの行動の理由はいねいに考える必要がありますが、子どもたちのなかで「集団」に対する意識が変わってきたこともあるようです。二、三歳では並行遊びという形で、友だちと場を共有し



発達の中の

煌めき

第一部
障害のある子ども・なかまの発達

白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ / 1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ / 1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

第8回 「～ダケレドモ～スル」と心をまとめあげていく —二次元可逆操作期の自分づくり

一枚の絵から

もう四十年前のことになりますが、滋賀県のみみじ寮・あざみ寮（当時は、「精神薄弱者入所更生・授産施設」）を訪れた際に、当時三十代の寮生の方が「絵かいてるで、絵」と一枚の絵をくれました。A2サイズの大きな紙いっぱい人物や太陽、電車などが描かれており、目が印象的なその人物は、今にも飛び出してきて歌い始めそうでした。私は発達について学び始めた頃でもあり、「四歳の節を越えてきている方なのだろう」といつい考えていたと思います。しかし、絵のもつインパクトを発達段階や発達年齢だけで表現できないもどかしさも感じていました。

この絵を描いた彼は身体も声も大きい方で、二十代の頃はうまくいかないこと、気に入らないことがあると、しょっちゅう「キレ」ていたということでした。農作業の仕事をしているのですが、一輪車で荷物を運んでいる途中に石などに引っかかってしまうと、そのまま放り出して行方不明になってしまうこともしばしば。大きい声を出すので、他の寮生が委縮することもあったようです。しか